

七 漆器

山形漆器はおよそ三〇〇年前に始まり、美しい花塗（塗立塗）を主体にして発展したが

品のある美しいものとなつて生活を潤わせております。

現在は紫壇塗り、権之助塗りが継承されています。特に、使えば使うほどに色艶が増す「朱時法」という独特の仕上げ法をもちいて、盆・重箱・菓子器・膳などが作られております。



八 平清水焼

九 山家焼 彌惣治窯

平安時代に慈覚大師が千歳山の土を使って焼きを教えたと伝えられる平清水焼。本格的な成立は、江戸時代中期頃ともいわれるが、その素朴な風合いが人気です。

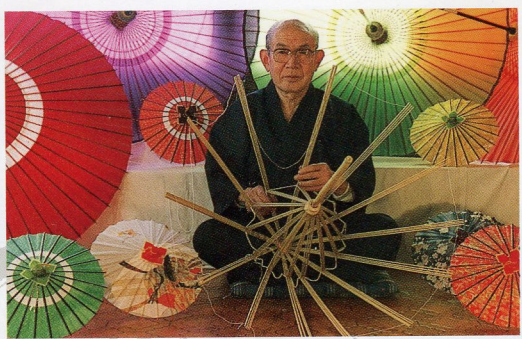
千歳山の原土を用い、千歳山の麓の「陶芸の里」にあり千歳焼とも呼ばれています。原土に含まれる鉄分の

にじみ出た梨青磁の青龍窯、うすくもりの味を出した辰砂釉、油滴天目の平吉窯そして民芸陶器の七右工門窯とさまざまな創意工夫をこらしています。また、紅花や蕎麦の釉薬が特長の彌惣治窯（山家焼）があります。



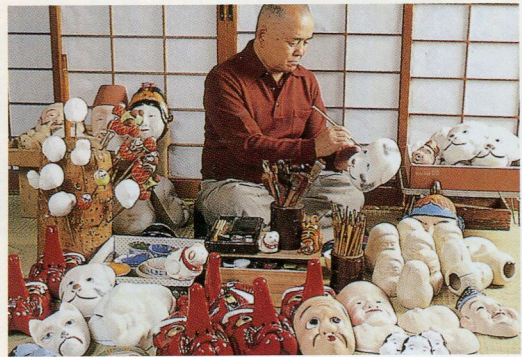
十 和傘

山形の和傘は、江戸時代から水野藩の奨励で盛んに作られ、東北一の産地になりました。現在では一軒だけになりましたが、伝統を守り制作しております。その作風には日本の情緒と手作り独特の味わいがあります。



一一 山形張子

幕末の頃、京都の土渋江長四郎が山形下条町に土着し、京都嵯峨人形の手法によつてつくつたのが起りとされる山形張子。木型に和紙を打ち込む製法により、ダルマ、人形などが生み出されています。



一二 こけし

こけしができたのは百余年くらい前で、当時は子供の遊び玩具として東北各地の温泉場のみやげ物屋で売られていたのが始まりです。現在、創作こけしが多く出ている中で、昔からの郷愁をそえる伝統こけしに相変わらずの人氣が集まっているようです。



並系やその他の工人もあり、この伝統はいくつかに系統が分けられ、山形作並系、蔵王高湯系などが伝承されております。

一三 一四 建具

木造家屋には欠くことのできない襖、障子などは古来「山形建具」として好評を博してまいりました。最近伝統の堅美さにくわえ、近代建築にマッチするデザインを工夫して、手作りの良さが認められています。

